

令和5年度 府中市立府中第三中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○府中市の到達度確認テストでは、「漢字の読み書き」について全体平均より3.5ポイント低い。 ○府中市の到達度確認テストでは、「漢字の読み書き」以外の項目は、全体平均を0.5～3ポイント上回っている。 ○1学期の定期考査の正答率をみると、知識・技能、読解問題において、選択問題に比べ、記述問題の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字の読み書きについて、授業初めに小テスト、まとめテストを継続的に実施する。 ○語句や関連情報を調べることは宿題とし、記述そのものは授業時間内に行い、より細やかな個別指導を行う。 ○記述の「型」を示し、汎用性のあるアウトプットの「ひな型」を身に付けさせる。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○授業中には多くの発言があり、発言内容も理解度が高い生徒が多いが、定期考査の結果を見ると、学習内容が理解できていないことから、知識を定着させることや理解を深めることに課題がある（課題①）。 ○生徒の授業アンケートの結果から、自分の考えを自分の言葉でまとめたり、考えたことや話し合ったことを表したりする力を伸ばすことに課題がある（課題②）。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題①の改善に向けて、重点項目であるICTの活用を通して生徒の社会的事象への関心を高めるとともに、調べ学習を通して理解を深める機会を授業の中で増やす。また、重点項目であるグループ活動を実施する頻度を増やして、話し合いを通して考えを深める機会を増やす。さらに単元ごとの小テストを実施する。 ○課題②の改善に向けて、学習課題を工夫して自分の考えをまとめたり、表現したりする機会を増やし、その能力を高められるようにする。 		
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○数学を、単に計算をする教科と捉えていたり、将来生活する上では必要のないパズルのようなものと考えていたりする生徒が多い。したがって、小学校の算数から苦手な生徒にとっては学習意欲をもちづらく、授業規律の低下にもつながっていると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活との関連を意識しやすい教材を使用して、協働的・探究的な授業を実施することで、数学の学習内容を、生活の中のものに関連付けて考える力を付けさせる。 ○支援員と協力しながら、数学が苦手な生徒に必要な支援をしていく。とりわけ、小学校での既習事項を含む基本的な計算能力を身に付けさせる。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が考えをまとめ、発言したり、文章で表現したりすることに課題がある。 ○既習事項と新しい学習内容を関連付けることが苦手な生徒が多く、既習事項をしっかりと定着させる必要がある。 ○実験の作業は多くの生徒が積極的に参加しているが、実験結果を正しく文章で表現できていないことから、実験から得た結果を科学的に表現させる指導が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実験の振り返り以外にも、各単元のまとめの時間においても、探求活動の時間を充実させる。 ○既習事項を、身近な自然現象と結び付けさせることで、新たな学習内容へ関連付けようとする意識を高めさせる。 ○実験の振り返り時に、各班等で話し合いの時間を設ける。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○実技については前向きに歌う姿勢が見られる。変声期にも配慮しながら、よりよい発声で歌えるようになることが課題である。 ○生徒が自分たちでパート練習を進められるようにすることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○常に響きのある声で歌うことを意識させ、授業の様々な場面でもよい例を褒め、自信を付けさせる。 ○自分たちでパート練習を進めるといった形をまずは定着させられるように、毎回振り返りをしながら、自分たちでできたという経験を重ねてさせていく。 		
美術	<ul style="list-style-type: none"> ○制作への意欲・関心は強いが、主題を基にした制作から外れてしまうことが課題である。 ○定期考査において、技法の名称や記述問題において、定着が弱いことが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主題に基づいて作品を鑑賞することや、主題の周知を何度も重ねて行い、制作の道筋をしっかりとまとめることを重点的に指導する。 ○技法の名称は、実技と同時に指導することで、実感とともに、その定着を図る。 ○記述問題は、記述する上で重要な視点を繰り返し強調して指導する。 		
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ○運動に対する取り組みは意欲的な生徒が多いが、技能や体力の個人差が大きい。 ○メリハリをつけた上で、生徒同士のコミュニケーションを多くとることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き体力を向上、維持させるために、筋力トレーニングなどを継続してやりきらせる。 ○教員が事前にしっかりと準備をしながら、その種目の技能の高い生徒が、苦手な生徒や教えてほしい生徒に教えながら学習する時間を増やす。 		
技術	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査において、知識に関する問題は得点できるものの、思考に関する問題が得点できない生徒が多い。 ○作業手順書や説明書を読み、自分で考えて進めていくことが苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分で考えたり、調べたりする場面を多く設定する。同時に、教師が教えずにできるようにし、自分で考えさせる。 ○次の作業など分からないことがあった際に、まず説明書を読んで自分で考え、それでも分からなかった場合に友達や教師に聞くように指導する。 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○よく発言し、プリントの解答も意欲的に記入する生徒が多い。 ○課題に対する答えについて、自分自身で考え抜くことが苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○考え抜く力を身に付けさせるために、机間指導を重視し、粘り強く取り組むことの大切さと、そのための取り組み方について、個別に指導する。 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校での既習内容の定着の差が大きい。 ○ライティングにおいて、正確に単語や文を書くことが困難な生徒が目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○帯活動やワークシートを用いて、既習内容を復習する機会を多く設けていく。 ○授業の中でライティング指導の機会をより多く設けていく。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第三中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○知識・技能の達成率が低い生徒が多い。 ○授業の中で発言する生徒に偏りがあり、積極的に発言する生徒が少ない。 ○協働学習は意欲的だが、一人で考える時間で考えを整理することが苦手な生徒が多い。 ○「読むこと」において、文学作品を読むことに対して苦手意識をもつ生徒が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ○知識・技能を活用しながら思考力・判断力・表現力を育む授業を行う。 ○自ら調べたことを基に知識を身に付け、考えをまとめる指導を行う。 ○根拠を基に自分の考えをまとめ、書いたり話したりできるようにする。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○授業内での発言をする生徒に偏りがあり、積極的な授業参加の姿勢が見られない生徒が多い。 ○文章で表現する能力に差があり、問われたことに対して正しく簡潔に表現することができない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人一人の考えをペアワーク等で共有する時間を増やす。 ○ICT機器を活用して、画像や動画等を見せることで、視覚的に分かる授業を展開していく。 ○生徒同士の教えあいやグループワークなど主体的な活動を増やし、音声や文章で自分の考えを表現する場を増やす。 		
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○計算問題を解ける生徒が多い一方で、文章問題などで日常生活に関わりをもたせると深く考えられない生徒が多い。 ○計算問題が苦手な生徒の多くは、特に分数や小数などに対して必要性を感じていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活との関連を意識ししやすい教材を単元の初めに活用し、取組の意欲を高めさせるとともに、協働的・探究的な授業を実施することで、数学の学習が日常生活にいかに関係していくかを示していく。 ○支援員と協力し、計算や取組が困難な生徒に必要な支援をしていく。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> ①実験結果をもとに科学的に考察し、文章化することが難しい生徒が多い。 ②科学的な知識を活用して未知の課題に取り組む力が不十分な生徒が目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ①考察を実験班で共有したり、A評価の考察を、パワーポイント等を活用して提示したりする時間を確保していく。 ②未知の物質を特定する実験などを単元の終末に取り入れることで、探究する力の基礎を育てていく。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時の発声練習や既習曲を歌う場面で、積極的に声が出せない生徒が多く、全体的に歌う力が弱い。 ○生徒が互いに意見を出し合い、パート練習を進められるようにすることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒代表（声リーダーたち）が中心となって発声練習を行い、自分たちの力で合唱を盛り上げていく意識をもたせる。 ○生徒代表（パートリーダー）がリーダーシップをとり、コミュニケーションをとりながらパート練習を進められるようにする。 		
美術	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの生徒が、技法や理論について鑑賞では意識しているものの、制作の中では意識しきれていないことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○理論を指導する際には、制作に活用しやすい例や参考作品を紹介しながら説明する。 		
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ○1年間の基礎基本の積み重ねにより、ある程度の技能や体力は付いてきているが、小学校で経験がない単元は、例年よりも課題が多く見られる。 ○生徒同士の教えあいをさらに活発にさせることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き体力を向上、維持させるために、筋力トレーニングなどを継続してやりきらせる。 ○教員が事前にしっかりと準備をしながら、その種目の技能が高い生徒が、苦手な生徒や教えてほしい生徒に教えながら学習する時間を増やす。 		
技術	<ul style="list-style-type: none"> ○ものづくりを行う授業ではなく、知識を習得したり、考えたりする授業になると、主体性が低下する生徒が多い。 ○作業手順書や説明書を読み、自分で考えて進めていくことが苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の興味を引けるよう、生活の中にある身近な技術と結びつけた題材を示したり、発問をしたりする。また、分からないことや気になることを、自分で調査する場面を設定する。 ○次の作業など分からないことがあった際に、まず説明書を読んで自分で考え、それでも分からなかった場合に友達や教師に聞くように指導する。 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に課題に取り組む生徒が多い一方で、自発的に取り組めない生徒も目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の最初にねらいを示し、個々の学習課題についても、その目的やポイントを具体的に理解した上で取り組めるようにする。さらに、机間指導を重視し、つまづいている生徒に対して、個々に指導・助言をする。 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な英単語や英文を正確に書けない生徒が目立つ。 ○既習事項を活用して自分自身の意見や考えを表現することが困難な生徒が目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本となる単語や文法を確認する機会を設ける。 ○既習事項を活用し、自分自身の考えや意見を表現する活動を積極的に行う。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第三中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○全国学力学習状況調査において、「国語が好き」「国語がよく分かる」という項目での肯定的評価が都・全国の平均を下回っている。 ○1学期評定において、「読むこと」「話すこと・聞くこと」「書くこと」よりも低い。 ○定期考査において、文脈を的確に捉えた上で語句の意味を理解する問題の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○導入で、生徒にとって身近な例を用いるとともに、内容を説明する際にも、スライドが視覚的により見やすいものとなるようにする。 ○読み物教材において、心情や要旨等の捉え方を具体的に示すとともに、課題に取り組み、試行錯誤する機会を今よりも増やす ○解釈したものを見直し、よりの確な解釈の仕方がないかについて振り返る視点を示し、考えさせる機会を今よりも増やす。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器の活用等により、学習事項の大きな理解はできているが、基礎的な知識の定着度に大きく個人差が生じている。 ○文章での表現の能力に差があり、正しく簡潔に表現することができない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○e-ライブラリなどのアプリを活用して復習する時間を作る。 ○生徒同士の教えあいやグループワークなど、生徒が主体的に取り組める活動を増やし、言葉や文章での表現の場を増やす。 		
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○計算問題など、基本的な技能は習得できているが、文章問題などにおける場面の理解が難しく、応用問題に主体的に取り組むことができない生徒が多い。 ○発展コースでは、意欲的に思考問題に取り組んでいるが、自分の考えを言語化し、順序立てて説明することは苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の生活に身近な教材を使用することで、数学の学習内容を、生活の中のものに関連付けて考える力を付けさせる。 ○授業の中で、生徒同士の教えあいやグループワークなど、協働的・探究的な授業を実施することで、考えの言語化と深い理解につなげる。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○表現力が乏しく、実験結果を正しく文章で表現できていない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実験結果を記述させて、書き終わったら教員がチェックし、よい例や改善が必要な点を提示し、それらを生徒が共有できる指導を行う。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○1、2年の積み重ねにより、正しい発声法で歌える生徒が増えてきている。より良いハーモニーで歌えるようになることが課題である。 ○生徒が互いに意見を出し合い、パート練習を進めることができていない。練習内容を充実させていくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時の発声練習で行う「こんにちは合唱」や「歓喜の歌」で、常に4声のハーモニーを意識させ、合唱曲に生かせるようにする。 ○練習後の反省会や自己評価シートの活用で練習内容を振り返り、次回の授業に生かせるようにする。 		
美術	<ul style="list-style-type: none"> ○2年間の積み重ねにより、理論、技法に関しては十分身に付いているが、主題によって意欲に大きく偏りがある生徒が多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の導入で短時間、参考になる作品を視聴覚機器やタブレットPCを使用し紹介することで、課題に対する学習意欲をもたせる。 		
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ○2年間の積み重ねにより、ある程度の技能や体力は付いてきている。 ○生徒同士の教えあいをさらに活発にさせることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き体力を向上、維持させるために、筋力トレーニングなどを継続してやりきらせる。 ○その種目の技能が高い生徒が、苦手な生徒や教えてほしい生徒に教えながら学習する時間を増やす。 		
技術	<ul style="list-style-type: none"> ○あらかじめ決められたものを作ったり、作業に取り組んだりすることはできるが、自分で考えて案を出したり、工夫したりしながら物を作ることは苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題解決の際に、自分で考えることが苦手な生徒に対して、具体例や、過去の先輩の作品を提示するなどして、考える上でのサポートをする。 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○実習や作業において、意欲的に取り組み、よく発言する生徒が多い一方、手を抜くなど、集中が続かない生徒も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の最初にねらいを示し、個々の学習課題についても、その目的やポイントを具体的に理解した上で取り組めるようにする。さらに、机間指導を重視し、集中できていない生徒に対して、深く考えるために必要な視点や、丁寧に取り組むために必要な姿勢について、個々に指導・助言をする。 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ○会話活動に積極的な生徒が多いが、既習単語や文法が定着していない生徒が目立つ。 ○長文読解や意見文、英作文が苦手な生徒が多く、既習事項を適切に活用したアウトプットがあまりできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の意見を伝える活動を多く設け、既習単語や文法を復習する時間をつくる。 ○定期的に長文問題に取り組ませ、読み進め方や解き方を指導する。また自由英作文や意見文を書く機会を設ける。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。